



じゃがいものうち通信 NO. 50 2006.12.18

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel./Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:<http://www.minc.ne.jp/npo-jaga> 代表 松田 正

障害者自立支援法のその後

法律施行から1年もたたずに軌道修正を迫られた障害者自立支援法。大阪障害者センターが全国の障害者2296世帯を対象に行った調査だと、55%の世帯が「自己負担が月1万円以上増えた」と回答し、86%が制度見直しを求めているとの事です。

障害者福祉の自己負担割合は従来、本人の所得など負担能力に応じて決められ、低所得者の在宅サービスなどは無料でした。障害者の“自立”を謳ったこの法律の施行以後、それまでも足りなかったサービスの利用を控えることぐらいしか対処の方法はありませんでした。トイレに行く回数を減らすために、水を飲むのさえ控えているという話まで聞きました。

障害者団体から「収入が少なく、生活が圧迫される」と負担軽減を求める強い声が相次ぎ、とうとう与党も08年度までの3年間で1200億円の予算措置を政府に求めることで合意したとのこと。これにより事業者への支援策として、前年度収入の8割を保障している現行の措置を9割保障に引き上げ、障害者に雇用の場を提供している小規模作業所に対しては、05年度に廃止した補助金も一時的に復活させる。1作業所あたり110万円を軸に調整することになるようです。

そもそもが所得保障も十分でない障害者福祉に、応益負担を導入することに問題があることは、多くの方が指摘していたにもかかわらず、与党の数の力によるごり押しをしたのだから問題続出しても無理はないところなのですが.....。

今度の教育基本法の改正も、おそらくそれに続く憲法改正も、数の力で押し切られることに強い不安を感じます。(残念ながら15日に参議院で通ってしまいました。防衛庁から防衛省へのおまけまで付けて・・・)

(松田)

小規模多機能準備室より

11月7日と12月12日の2回、会を持ちましたので、合わせて報告します。

基礎研修については町から県に確認してもらったところ、開設が決定してからにして欲しいとのことで、一年先のことになりました。借家については、予定していたものの一つ、温泉前の建物は基準を満たせないのが不適合とわかり、次のものを交渉中です。将来的には借家が必要ですが、拠点改装するののも一つの方法じゃないかということになりました。介護保険の事業開始までの間、規制のない自主事業としてはじめられないかと協議を続けています。12月8日に屋久町地域密着型サービス運営委員10名による初めての会(注・下記)があり、申請のあがっていた密着型サービスの検討を求められました。しかし会長に決まった藤村先生から『屋久町全体の20年後を見通した長期のビジョンが必要ではないか。また既存のサービス・近く開始予定のサービスを含め、需給の地域的分布も考慮する必要があるのではないかという問題提起があり、住民からも意見を聞く会が開かれることになりました。決まり次第、町の放送などでお知らせがあると思いますので、多くの方の参加をお願いしたいと思います。(松田)

注・今回の介護保険の改正により、地域包括支援センターの設置、地域密着型サービスが創設され、その指定を町が行うことになりました。その適正な運営のために、地域包括支援センター運営協議会と地域密着型サービス運営委員会が設置されることになり、松田がその委員の一人に委嘱されました。

「地域でできる介護福祉実践セミナー」・・・

坂井由佳子さんのお話を聞いて 12月9日(土)

「老・病とあって死」なのですが、近頃はそれまでの時間がかかなり長い。長寿社会と喜んでいっているうちに、高齢者がかなり増えて社会経済をゆるがしている。國の財政にも強い圧迫を与えている。

坂井さんは、幼児より孤独の生活を強いられてかなり淋しい思いをしたけれど、それが、他者への思いやりのバネとなり、老人や障害者が「人」としてではなく「物」として扱われている現実に激しい怒りを感じ、矢も楯もたまず、ゼロから出発して、「デイケアハウスにぎやか」を立ち上げた。その奮闘記の一端を伺って、私は一年分もの笑いと涙の裡に多大の感動を持って聞き、心からなる敬慕の情を惜しまなかった。その一端をご紹介します。

かって坂井さんの居られた施設から転院された「うめちゃん」は、それから一ヶ月もたたぬ裡に、人間の原型をわずかにとどめてはいるけれど、全くの「異物」となってしまった！！同じ介護服を着せられて、男とも女とも分からぬ髪型で、これがあの

「うめちゃん」！と絶句する由佳子さんたち、虚空を遍歴しているかのような「うめちゃん」の虚ろな眼、呼べど答えずになんの反応もない。紙おむつとチェーンに繋がれた「うめちゃん」は、彼女に強い衝撃を与えたのです。これは人間として扱われたのではなく「物」としての生活を強いられた老人病院の、そして受け入れる家族が崩壊した厳しい現実であります。

これは、悔しいけれど、地球規模での経済主導主義社会がもたらした必然の姿であります。悔しいけれど我々は、直視しなければなりません。賽の河原に石を積んでいく由佳子さんに続けとばかり、崩されても壊されても出来ることは静かにやっていきたいと心より思いました。何よりも人間のハートを持つてするのが坂井さんや青山さんの基本姿勢であることを深く肝に銘じました。ありがとうございました。(星野 京)

介護技術ステップアップ研修 in 屋久島

(2006年12月9日・10日)

介護の世界で『知る人ぞ知る?!』あのケアプロデュースRX組の青山幸広さんが来島され、丸2日間の研修を受けました。屋久島の介護関連施設のほとんどが集まったのではないかと思う中、じゃがいものおうちからも8名が自主参加しました。笑いあり涙ありの2日間を通して2つのことを学びました。1つはテーマの通り「技術のステップアップ」。介護の世界はどこでも「腰痛」がついてまわります。そのための、腰を痛めない、力ではない実技の習得。寝返りに始まり、起き上がり、立ち上がり、移乗(トランス)の基本中の基本である「型」を学びました。過去に私も引き上げたり、持ち上げたりする方法(全くの自己流。周囲のやり方を見て真似ていた)で移乗などをしてきた経験があります。しかし、この「技」は、介助する側もされる側も、何て楽で心地のいいものか。皆がお互いでその「技」を練習し合うのですが、つい力で引き寄せたり、持ち上げようとしてしまいます。そんな時はお互いに「痛かった」「重かった」と言い、まれに「上手くできたかな」と言うときは「あらっ！体重軽くなったんじゃない。」なんて言い、介助する側とされる側の意見も一致していました。それこそ青山さんに起こしてもらおうと「自分がマシュマロに包まれているかの様に気づいたら起きていた」という感覚。「こんな風に起こされるなら起きてもいいかな」と思う程です。簡単に身に付く「技」ではないけれど、いつか体得できればなぁと感じました。

2つ目は、介護とは「関わり」を持つことが大切なんだということ。この「技(術)」を実際に行う時、介助する側とされる側の間には「信頼関係」がなくてはできません。「信頼関係」を築く為には相手の事を「知る」ことが必要です。相手の事を知らうと思うならばその人と「関わり」を持たないと当然「知る」ことはできません。今の介護の現場は、どうしても「時間」や「業務」に追われてしまっている事が多分にあると思います。今、目の前にいる人が「なにを必要としているのか」それをくみ取る努力を「関わる」ことの中からできる様になればいいなぁと感じました。まずは自分の内側から「介護」というものを見つめ直そう。そうすれば次になにが必要な事なのかが見えてくるのではないかと・・・と問いかけられた様な気がしています。

さいごに、この研修は「2日間受けて終わり」というものではありません。これから先は自分達で前進し、また進化させていくものであり、これからがスタートだと思っています。(羽田順子)



続・喫茶がかわった！

「障害当事者に社会参加の場を！」ということで木曜日に鹿島浩二さんと組んで喫茶をすることになりました。

私は浩二さんと出会えて本当に良かったと思います。浩二さんは身体を動かして働く事が大好き。楽しくて仕方がない様子。何事も一生懸命やる姿を見ていると、なんか私の方が励まされている気がしてなりません。「浩二さんの入れたコーヒー」「浩二さんが草引きをした花壇」をほめられると浩二さんは一日中「よかったなあ」と感動しています。ある時、リサイクルの古着で（殆どは喜んで買って頂いているのですが）残念ながら処分しなければいけないものがゴミ袋一杯になりました。仕方なくはさみで切って捨てられるようにしましたが、その作業の時に浩二さんは「悲しいなあ、涙出る。これもいろんな人の手で作られたらうになあ」と言います。いろんな事に無感覚になっている私に、常にみずみずしい感覚をぶつけてくれます。最近は、お客さんが「今日は浩二さんは？」と声をかけてくれるようになりました
(松本活栄)



「働く事」

僕は、今まで働くという事は、簡単な事だと思っていましたが、そうではない事に気付きました。それは、お父さんやお母さんが、朝早くから夜遅くまで仕事をしている事を知ったからです。お父さんとお母さんとお姉ちゃんが、そうやって一生懸命に働いているからこそ、家族で好きなところに行ったり、ほしい物が買えたりします。それに、働く事は世の中みんなのためにも役立つ事だと思いますお父さん、お母さん、お姉ちゃんが仕事を頑張っている様子を見ると、心からそう思います。僕は家族のために、世の中のために、一生懸命に仕事をしているお父さん、お母さん、お姉ちゃんに、すごく感謝しています。僕は、これからも、楯さんの仕事や、「じゃがいものおうち」の喫茶の接客のお手伝いや、コ-ヒ-や紅茶を作る仕事を一生懸命、無理しない様に、みんなに負けない様にします。これからも、もっともっとおいしいコ-ヒ-とか紅茶を作って、おきゃくさんに来てもらえる様に頑張りたいと思います。その時は、応援をよろしくお願いします。忙しいときもあるけど喫茶の接客や、コ-ヒ-や紅茶を作るお仕事をしていると、けっこう楽しいです。お客さんと話をしたり笑ったりして面白いときもあります。（鹿島浩二）

子持ちギャルの《ひとこま見聞録》

『劇団 とんちんかん』?!の巻

去る11月21日に安房の総合センターで行われた福祉文化祭に、「手をつなぐ育成会」の面々で結成された劇団、その名も『とんちんかん』が華々しく舞台に立ちました。演目は「浦島太郎?!」。主演の浦島太郎に高見沢信裕さん。セリフは多いし、動きの変更も多く混乱してしまい、「イヤだ！僕そんなセリフ言わない!」「僕は動きたくない!」と、練習の途中ストライキを起こした信裕さん。だけど、他のみんなの頑張る姿に刺激され、「僕が主演だ~!役者魂~!」と、見事、復活を遂げました。本番もアドリブのセリフがばんばん飛び出し、会場は笑い声で包まれました。海亀役には浩二さん。「私も海亀をかぶりた~い」とだだをこね、鈴木もかぶって見たものの、「重!」「暑!」。鈴木はあんなに重たくて動きづらい亀をかぶっての演技なんて、とても出来ません。なのに、つらい顔ひとつ見せず練習し、演技して見せた浩二さんはすごい!海亀の黄門様も、堂々と大きな声ですばらしかった!。竜宮城の乙姫ズに岡留千賀子さん、岩川清美さん、日高利枝子さん。千賀子さんはセリフを自分で紙に書き、何度も何度も練習をしていましたね。恥ずかしがり

屋さんだけど、それを自分で克服しようと努力する姿には、とても感動しました。本番もバッチリだったね!乙姫様の衣装を着ると、「見て、見て、」と、とても嬉しそうにしていた清美さん。「ドンマイ!がんばって!」と、みんなを励まし、支えてくれました。そんな清美さんは、とても周囲に気を配ってくれて、荷物が多かったり、重たそうにしていると、パッと来て手を貸してくれたり、お茶を飲んだ後のゴミも、パッとかたづけてくれます。やさしいね、どうもありがとう。いつも元気いっぱい利枝子さん。衣装を着るとたちまち、「私、お姫よ~、みんな~姫って呼んで~」と、すぐになりきってしまう利枝子さんには台本なんて不必要です。本番もアドリブセリフでつかみはバッチリ!踊りも最高!来年はどんな利枝姫でなりきりを見せるか、とっても楽しみです。この「浦島太郎?!」のクライマックスで、『劇団とんちんかん』らしさを醸し出す為に、実はとても苦勞をしたんです。ご覧になった方はおわかりですね!

さて、来年はどんな劇で、いつ水戸の黄門様が飛び出すか、乞うご期待を!(鈴木裕子)



利枝子さん作

おおぼらかい

『おおぼらかい』現在進行形

8月から始まったこの会も先日5回目を迎えたところです。

喫茶の協力のもと、ティータイムしながら意見交換したり、時には強制的なお勉強会風になったり。

「いったい何がメインなの？」と言われてそうですが、この先も今のところはしばらくこの調子で進んでゆくことと思います。ただひとつ言えることは、「メインは参加して下さった皆さんです」ということでしょうか。何の役に立つかは今は分からないけど・・・。「むだの華」を一緒に咲かしてみませんか？

8月31日(木) 茶話会

11月28日(木)

「生活障害論」三好春木著についての学習会

9月28日(木) 茶話会

12月14日(木)

茶話会

10月26日(木) 芋煮会

(羽田順子)

行事報告

じゃがいも植え付け

11月5日(日) 尾之間新里自動車の下

秋晴れのすがすがしい日、恒例のじゃがいも植え付け作業がありました。「今年もりっぱなじゃがいもに育ってよ」とみんなの願いを込めての楽しいひとときでした。



行事予定

しゃくなげ未来館による
クリスマス会

日時 12月21日(木) 12時～14時半

「じゃがいものおうち」より4名出席予定



餅つき大会

(手をつなぐ育成会との交流会)

日時 12月28日(木) 9時集合

場所 保健センター

持ち物 エプロン、三角巾又はスカーフ、食器(箸、茶碗、コップ)
もろ蓋(餅入れ)、一晩水に漬け、ざるにあげた餅米
(3キロの餅米でお供え餅一組と丸餅20個できます)



新春茶話会

日時 1月4日(木) 12時～3時頃

場所 「じゃがいものおうち」

持ち物 一品持ち寄り

編集後記

先日、息子の水生輪と一緒^{みぎわ}に安房小6年の教室に「福祉について」のテーマで話に行きました。障害者を見て「かわいそう」と思うのが、障害者の少ないこの屋久島では普通です。「障害は、不自由ではあるけれど、不幸ではない」。だれかがサポートすればその不自由さは解消出来る。でもそのサポートが得られるには多くの人々の正しい理解が必要です。緊張で汗をかきながら、「家でみんなと障害者の事を話してみてください。」と語る水生輪の姿がどのように映ったか。「一人でもいいから解ってくれると嬉しいね。」と帰ってから話していました。地域の人たちに、正しく障害者を解ってもらおう発信をすることも通信の持つ大きな役割であると感じる今日この頃です。

*水生輪さんは重度身体障害者です)

(楯)